

右詩歌合以弘文院藏本按合了

右詩歌合以弘文院藏本按合了

卷四

卷四

卷四

三人書

歌合の巻の終りにある歌合の巻の終りにある

或

或

歌合の巻の終りにある歌合の巻の終りにある

内裏詩歌合 建保元年二月廿二日

題

内裏山中花夕暮 野外秋望

式作者 藤原範時

右中辨藤原範時朝臣

權右中弁平經高朝臣

式部權大輔為長卿

大宰權師資實卿

泰議範朝卿

泰議範朝卿

從三位賴範卿

右中將源通方朝臣

左少弁藤原家宣

左近將監藤原教實

中宮大進藤原兼隆

治部大將藤原知長

右衛門權少尉藤原家光

勘解由次官平棟基

右

播戶守藤原範基朝臣

勘解由次官平宗宣

權大納言良平卿

侍從定家卿

女房御製

從三位家衡卿

女房

女房

左衛門權少尉藤原康光

左近少將藤原為家

左近將監藤原宗時

左兵衛權少尉源維長

丹後守藤原範宗

一番 山中花夕

左

右中兵藤原範時朝臣

好鳥林深凌雪宿飯樵路滑負春行

右勝

播磨守藤原範基朝臣

いふふてふひひあふふと花のたより出方及ふふふ

二番

左持下

桃溪浪洗斜陽影梅嶺風芳欲夜聲

右

去燈山けのふゆふと花のひらけつと花のふら

三番

左勝

權右中辨平經高朝臣

煙霞林遠暮雲掛桃李蹊深春日岳

右

勘解由次宣平宗宣

くつふふ花のたよりあふふと花のひらけつと花のふら

四番

左持中

松栢嵐曠青寂寞峯巒花滿白參差

右

あけをりてはつと決り白ひしそとあふまじゆるそとふたふた

五番

左

式部權大輔為長朝臣
一日遊春飯帶月双雲為雪老眠花

右

權大納言良平卿
長をりてはつと決り白ひしそとあふまじゆるそとふたふた

六番

左

相霞洞裏旅人病錦繡谷西居士家

右勝

雲之と風をりてはつと決り白ひしそとあふまじゆるそとふたふた

七番

左持上

大宰權帥資實卿

山郭風煙多下柳溪門桃李少從松

右

侍從定家

志をりてはつと決り白ひしそとあふまじゆるそとふたふた

八番

左持上

嶺霞台岳八千丈花雨巫山十二重

右 八十八支 藤原公成 十二番
さくらさきの春のよしのをさるゝ一夜のさくらさきの

九番

左 持中

泰議範朝卿

攀艷共飯樵客路 耽粧飲病隱倫家

山若風致 是十林 刺女房 御製

乃とて 昔の春のよしのをさるゝ一夜のさくらさきの

十番

左

晴風拂嵐零 春露斜日映林 混晚霞

右 勝

つゆさきの春のよしのをさるゝ一夜のさくらさきの

十一番

左 持下

從三位 賴範卿

嶺梅遠近隨嵐 馥野杏淺深 秉燭分

右

從三位 家衡卿

さくらさきの春のよしのをさるゝ一夜のさくらさきの

十二番

左 持中

子鳥飯林 朔曉月為花 借宿入春雲

右 左 勝 十三番

みよのわびく(露)かみつく心花の運り出の心も
十三番

左 勝 右 中 將 源 通 方 朝 臣

霞中 問 雪 訪 松 戸 塵 外 愛 山 壁 石 棧

右 左 勝

此ひもたるたろかたの丸の形をさうせらるるたはりてえ
十四番

十四番

左 勝

溪 竹 夕 鶯 藏 霧 宿 嶺 林 春 月 出 花 昇

左 勝

熊 右 言 迄 續 行 文 並 女 夢 昔 江 西 節

ふさのきよめあはれはささるとまて形もさつらふ月を
十五番

十五番

左 持 中

雲 色 飯 溪 憑 柳 宿 月 光 銜 嶺 出 花 遲 水 出

新 右 春 色 風 十 餘 年 女 房

二條の寺宿と梅より衣いし夕のれん山のささるせ
十六番

十六番

左 持 下

春 山 霧 白 鶯 高 囀 青 嶂 霞 紅 松 獨 遺

春右 春山 應卜 病縱 覃西 日欲 何之

唯是 春山 應卜 病縱 覃西 日欲 何之

十七番

左 近將 監藤原 教實

唯是 春山 應卜 病縱 覃西 日欲 何之

右 勝 推少尉 藤原 康光

唯是 春山 應卜 病縱 覃西 日欲 何之

十八番

左 推支哥 返殘花 夕巫女 夢芳 行雨 時

推支哥 返殘花 夕巫女 夢芳 行雨 時

右

中宮 大進 藤原 兼隆

十九番

左 勝

藍溪 霞暖 鶯聲 出松 洞日 曛鶴 睡閑

右

左 近少將 藤原 為家

廿番

左 勝

與月 相期 占綠水 為花 一夜 宿春 山

右 皇太后御宇

北一番 吉野の心を省と、わが衣をまじりて入あひらぐ存

左 持下

治部大輔藤原知長

雪飛樵客漸斂地月伴隱倫獨往春

右

左近將監藤原宗時

云所爪尾上よま乃くきとて穠きとる入あひらぐ存

北二番

左

雲病洞中鍾隔艶風來溪北僅傳句

右 勝

うゝおを花の風うとねすう有よのしをねれ白電

北三番

左 勝

右衛門權少尉藤原家光

蘿月東昇蘇樹杪松嵐北送一溪花

右

左兵衛權少尉源維長

おれおを不のり雲も去風は海のり花のほしをねれ

北四番

左

春望錦繡谷間露夕拜蓬萊洞裏霞

春右勝 雨來柳色裏 含露霞底桃 顏醉和春

雨來柳色裏 含露霞底桃 顏醉和春

北五番

左持下 雨來柳色裏 含露霞底桃 顏醉和春

雨來柳色裏 含露霞底桃 顏醉和春

右東長 藤原範宗

雨來柳色裏 含露霞底桃 顏醉和春

北六番

右勝 客路送薰新月影 樵衣惟馥暖風辰

客路送薰新月影 樵衣惟馥暖風辰

右勝

一番 野外秋望

一番 野外秋望

左持

範朝卿

松蓋雨時應 宿客芦花風 処似招人

右

女房

袖中 破字 秋風 招人

二番

左持上

山西霧薄斜陽透 林下鹿鳴落葉頻

右

浅茅生あめはくはく白露のうきまは煙るをくひせり

三番

左 持上

資實卿

隼撃林梢飛鳥少馬嘶原上獵徒多

右

定家卿

ひよるはまなきとあめ秋のせよいくせうくさく萩の上は露

四番

左 持上

殷夢夜静耳霖雨軒樂秋深落葉波

右

船より草れ狭くうらひぬるもはるもよらぬの糸

五番

左

為長卿

白鷺双飛秋澤雪紅梢半出暮山雲

右 勝

良平卿

ひうらひあめはくあめもくさくひく葉と秋風く

六番

左 勝

風生村柳多黄落月透野松帶翠氣

風右
ふらふらふらのふらふら
通方朝臣

七番

左
寒水澤長芦兩岸秋花
細草千程

右勝

あふらふらふらのふらふら
女房

八番

左勝

仰雲連野遠鴻滅
爽籟與林睡鹿驚

右

玄波也こ秋もて括て
為れその輝をうめく

九番

左

頼範卿

秋露草深麋鹿苑
夕陽煙細隱倫棲

右

家衡朝臣

心す
世をるるの末のこ
あふらふらふらのふらふら
秋の夕を

十番

左
持上

月浮水面寒花白霧
断山腰遠雁低

右 木山 寒山 暮雨 七歌 八歌
左 持中 範時朝臣
十一番

寒野 麻蹊 穿霧 見暮 山雁 陣与 雲斜

右 範基朝臣

十二番
左 持下
梧楸 雨深 群梢 色藁 溥露 芳百草 花

右 家宣
嵐陰 慘烈 林園 暮野 色青 黃錦 繡秋

右

十三番
左 持下
女房

十四番
左 勝

雲樹 影斜 村北路 月花 望遠 郡西 樓

右
清風のふりたててきれ萩の末のこゝに袖をさす也
十五番

左
林霧興来城樹僻稼雲荊盡野田閑

右

じう世をふりてのこゝに重のさうめをさす也
十六番

左勝

紫蘭露環東昇月紅葉嵐高西繞山

右

おのころのやち未のまゝとあてがえたるは海に秋の
十七番

左持上

兼隆

蘭蓑露靚風千畝木葉秋紅霜一村

右

為家

夕暮の霞をたてては海風をたれおひに萩の秋
十八番

左持下

林宴親朋琴倚石野遊索意酒盈樽

林右 縣限卷...
十九番

左 和長

嵐来易掩三間寺 霧霽初看萬頃田

右勝 藤宗時

二十番

左

遠樹梢紅冬已近 寒雲山霽月孤懸

右 藤家光

北一番

北一番

左持下 藤家光

遠樹半晴虹影淡 平蕪雨過席蹄荒

右 源維長

北二番

左持下

郡端曉露蕙蘭悴 原上秋風鷹隼揚

右 秋雲歸洞寒 皁靜白霧隔 涯遠水深

北三番

左 持下

秋雲歸洞寒 皁靜白霧隔 涯遠水深

右

風 藤康光

北四番

左 持下

野外徑幽霜後草 村南地僻夕陽林

右

付 北五番

北五番

左

棟基

三危露結 倭虫怨 一片嵐過 和鹿聲

右 勝

範宗朝臣

北六番

北六番

左

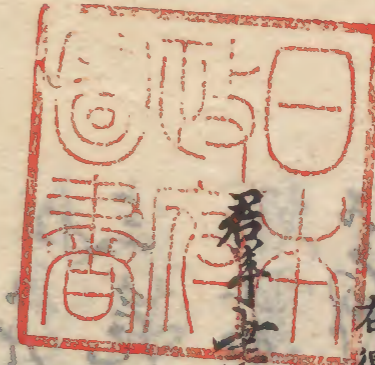
歸燕遠 花雲靜 色敗蘭更 卧月明程

右勝 志願 貞氏 内野

名有文月くう坊のあまのまゝるの好くまゝる

六六書

松むの書



右得古場一本書寫以横田漢語本投合のさくしるまひ

看書百類後卷第二百廿之五宗臣

嘉永元年九月廿一日

宗臣

六六書

Handwritten text in cursive script, mostly illegible due to fading.

